



認知症に関する意識調査報告書 -医療・介護従事者対象-

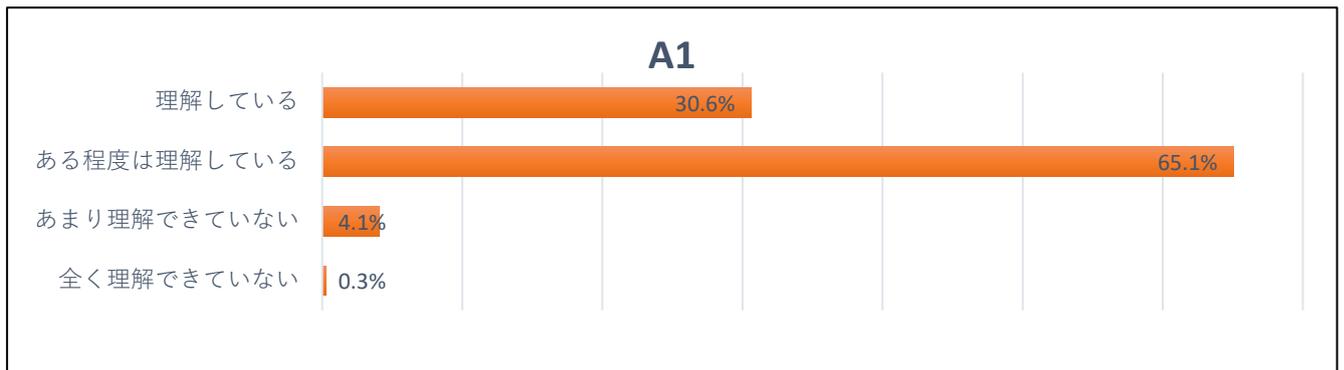
1. 調査概要

- 調査目的: 認知症に対する理解や態度の違いを把握し、普及啓発や支援施策の検討資料とする
- 調査対象: 専門職(医療・介護従事者)
- 調査方法: オンラインアンケート
- 調査期間: 2025年7月2日～7月25日
- 回収数: 1,179名
- 設問数: 全14問(選択式及び自由記述)

2. 設問別分析

設問 A1: あなたは「認知症」と「認知症の人」に関して正しく理解していると思いますか。最もあてはまるものを1つえらんでください。

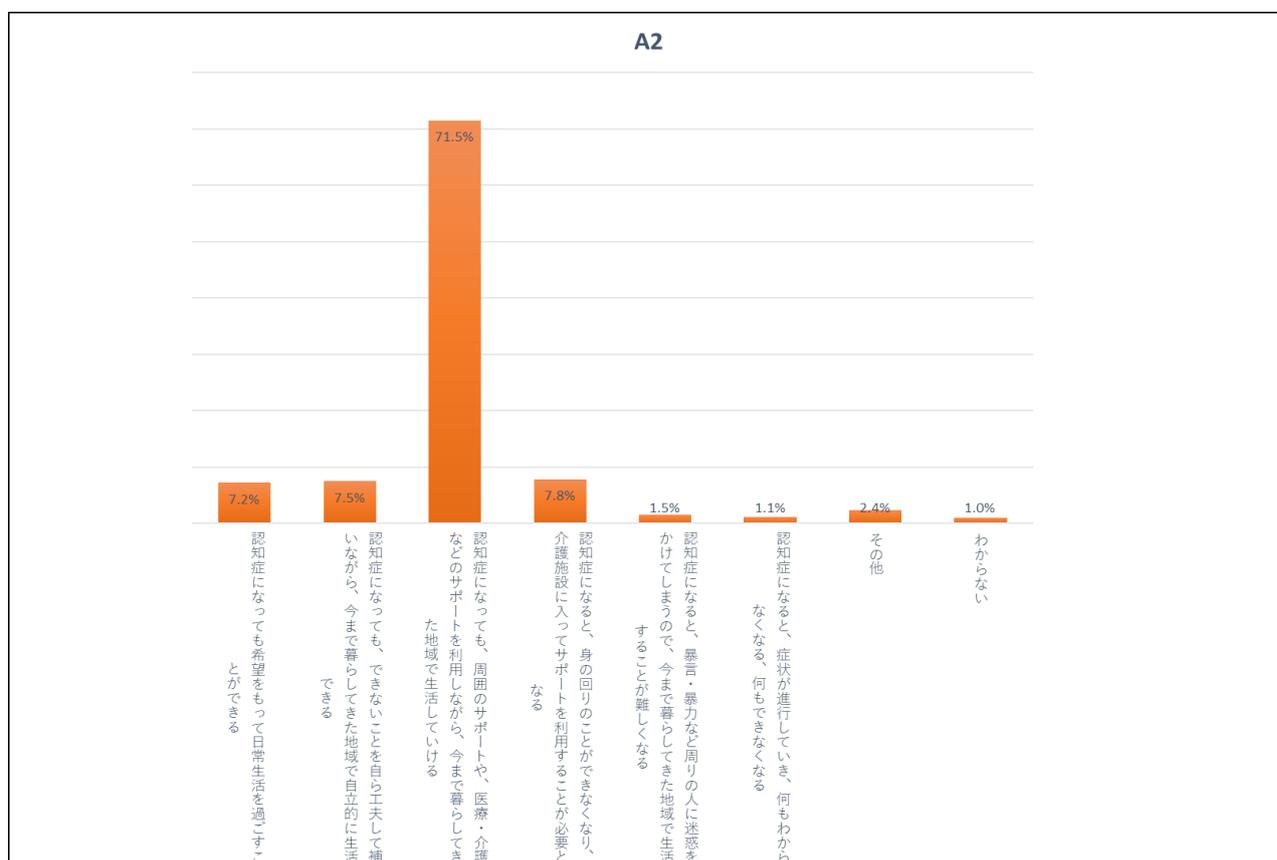
回答	専門職 (医療・介護従事者)
理解している	30.6%
ある程度は理解している	65.1%
あまり理解できていない	4.1%
全く理解できていない	0.3%



「認知症」と「認知症の人」に関する正しい理解について、「理解している」、「ある程度は理解している」が95.7%であった。

設問 A2: 認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いものを1つ選んでください。

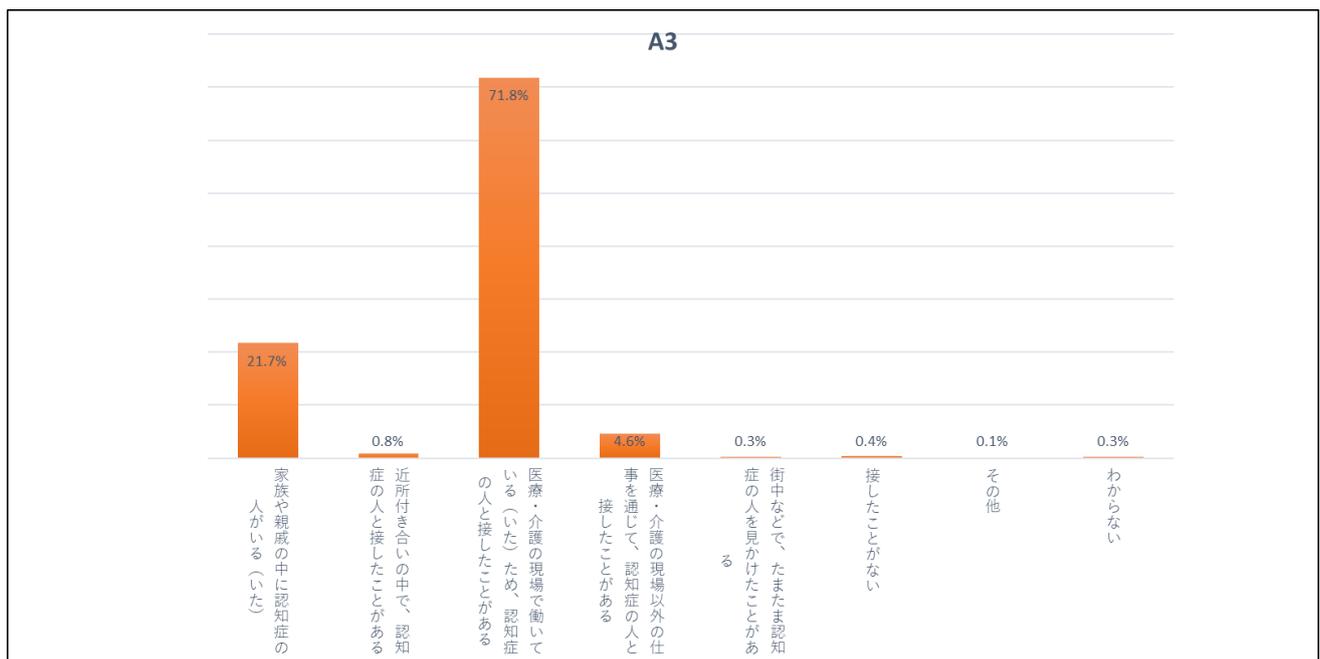
回答	専門職 (医療・介護従事者)
認知症になっても希望をもって日常生活を過ごすことができる	7.2%
認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で自立的に生活できる	7.5%
認知症になっても、周囲のサポートや、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	71.5%
認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要となる	7.8%
認知症になると、暴言・暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	1.5%
認知症になると、症状が進行していき、何もわからなくなる、何もできなくなる	1.1%
その他	2.4%
わからない	1.0%



認知症に対するイメージについて、「認知症になっても、周囲のサポートや、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と回答した割合が 71.5%で最も大きかった。次に割合が大きかった回答は、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要となる」であった。「認知症になっても希望をもって日常生活を過ごすことできる」と答えた割合は、7.2%と比較すると低い割合であった。

設問 A3: 今までに認知症の人と接したことがありますか。最も近いものを1つ選んでください。

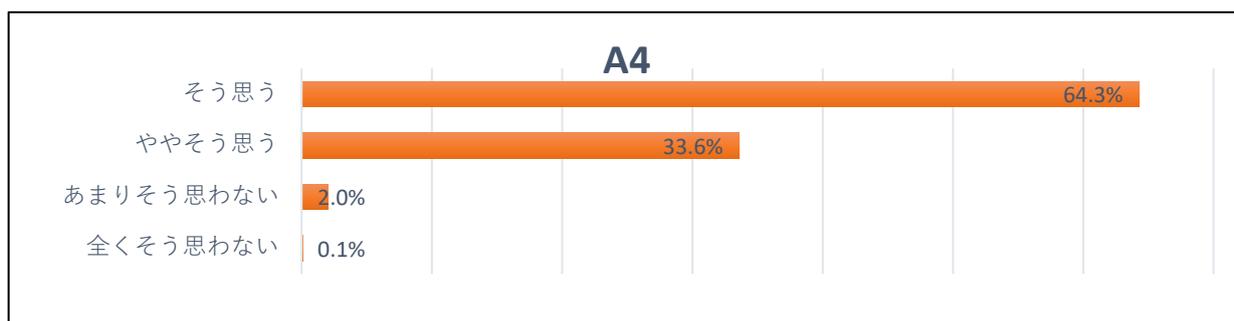
回答	専門職 (医療・介護従事者)
家族や親戚の中に認知症の人がいる (いた)	21.7%
近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある	0.8%
医療・介護の現場で働いている (いた) ため、認知症の人と接したことがある	71.8%
医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	4.6%
街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある	0.3%
接したことがない	0.4%
その他	0.1%
わからない	0.3%



認知症の人と接した経験について、「医療・介護の現場で働いている (いた) ため、認知症の人と接したことがある」が 71.8%で最も割合が大きかった。

設問 A4: 認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せますか。最も近いものを1つ選んでください。

回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	64.3%
ややそう思う	33.6%
あまりそう思わない	2.0%
全くそう思わない	0.1%



「認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せるかについて、「そう思う」および「ややそう思う」と回答した割合が 97.9%と高かった。

設問 A5: 認知症の人と喜びや楽しみを分かち合えますか。最も近いものを1つ選んでください。

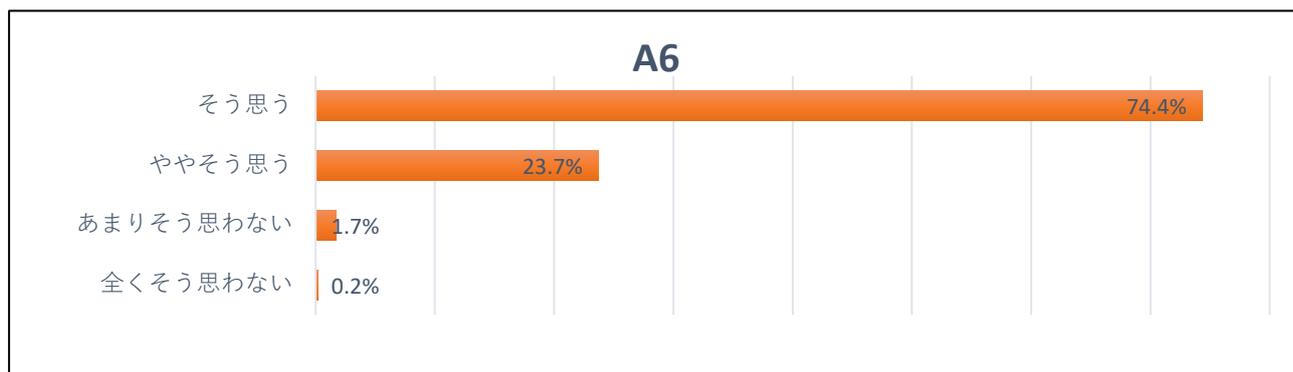
回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	55.7%
ややそう思う	40.7%
あまりそう思わない	3.4%
全くそう思わない	0.2%



認知症の人と喜びや楽しみを分かち合えるかについて、「そう思う」が 55.7%で最も割合が大きかった。

設問 A6 認知症の人と、ちゅうちょなく話せますか。最も近いものを1つ選んでください。

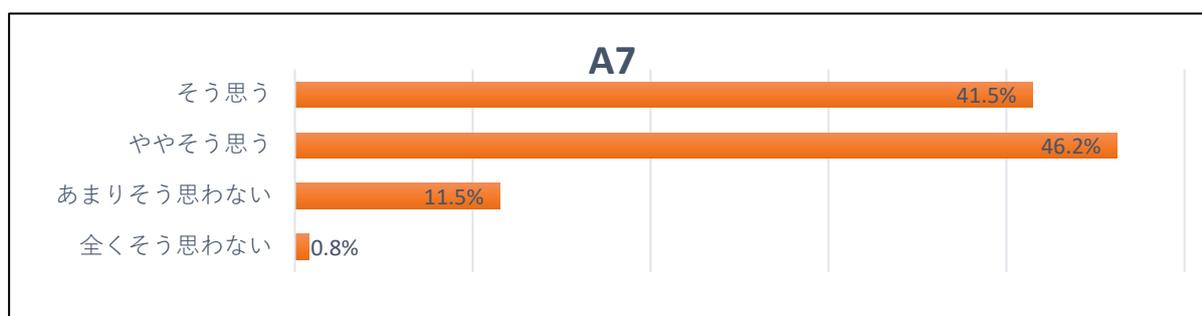
回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	74.4%
ややそう思う	23.7%
あまりそう思わない	1.7%
全くそう思わない	0.2%



認知症の人とちゅうちょなく話せるかについて、専門職調査では、「そう思う」が74.4%で最も割合が大きかった。

設問 A7 認知症の人と積極的に関わりたいと思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

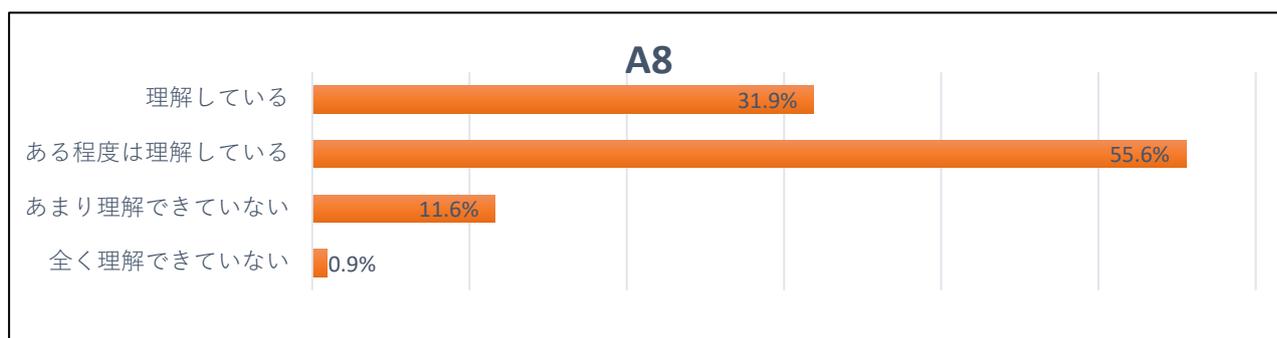
回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	41.5%
ややそう思う	46.2%
あまりそう思わない	11.5%
全くそう思わない	0.8%



認知症の人と積極的に関わりたいと思うかについて、「ややそう思う」が46.2%で最も割合が大きかった。

設問 A8 2023年6月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法(以下、認知症基本法)」が成立し、2024 年12月に国は認知症施策推進基本計画を策定しました。その計画のなかで「新しい認知症観」が示されました。あなたは「新しい認知症観」を理解していると思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

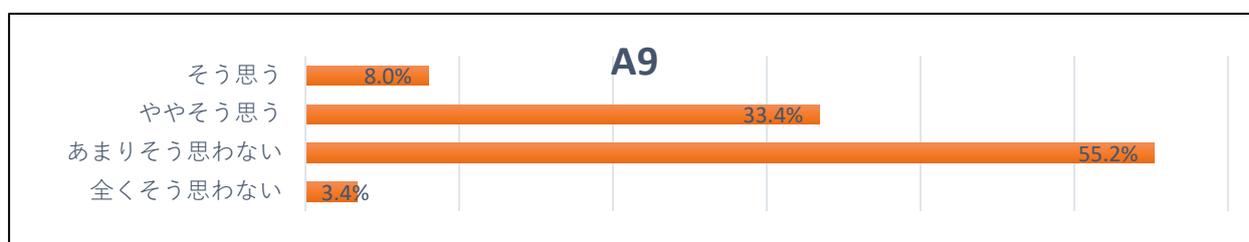
回答	専門職 (医療・介護従事者)
理解している	31.9%
ある程度は理解している	55.6%
あまり理解できていない	11.6%
全く理解できていない	0.9%



共生社会の実現を推進するための認知症基本法に対する認知について、「ある程度は理解している」が 55.6%で最も割合が大きかった。

設問 A9 あなたは、「地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できている」と思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

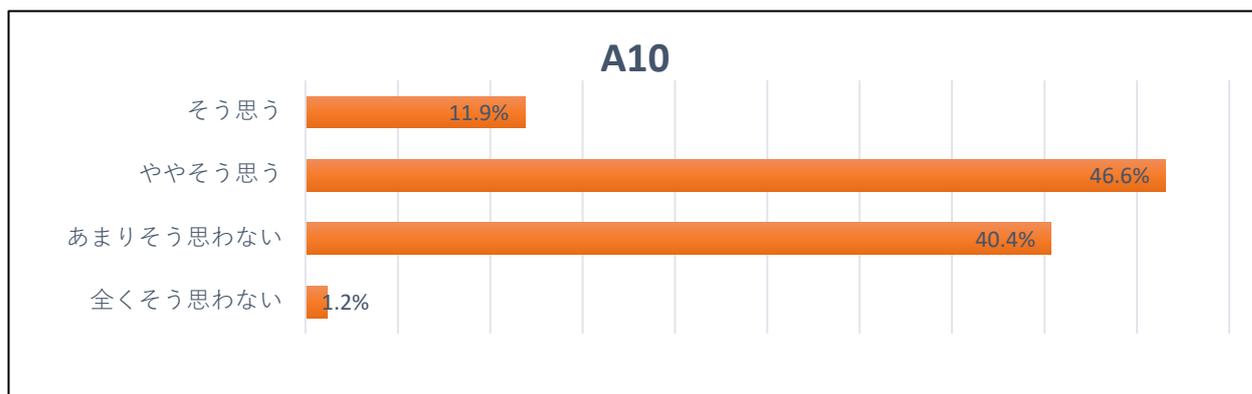
回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	8.0%
ややそう思う	33.4%
あまりそう思わない	55.2%
全くそう思わない	3.4%



地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて、「あまりそう思わない」が 55.2%で最も割合が大きかった。

設問 A10 あなたは、「認知症の人が自分らしく暮らせる」と思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

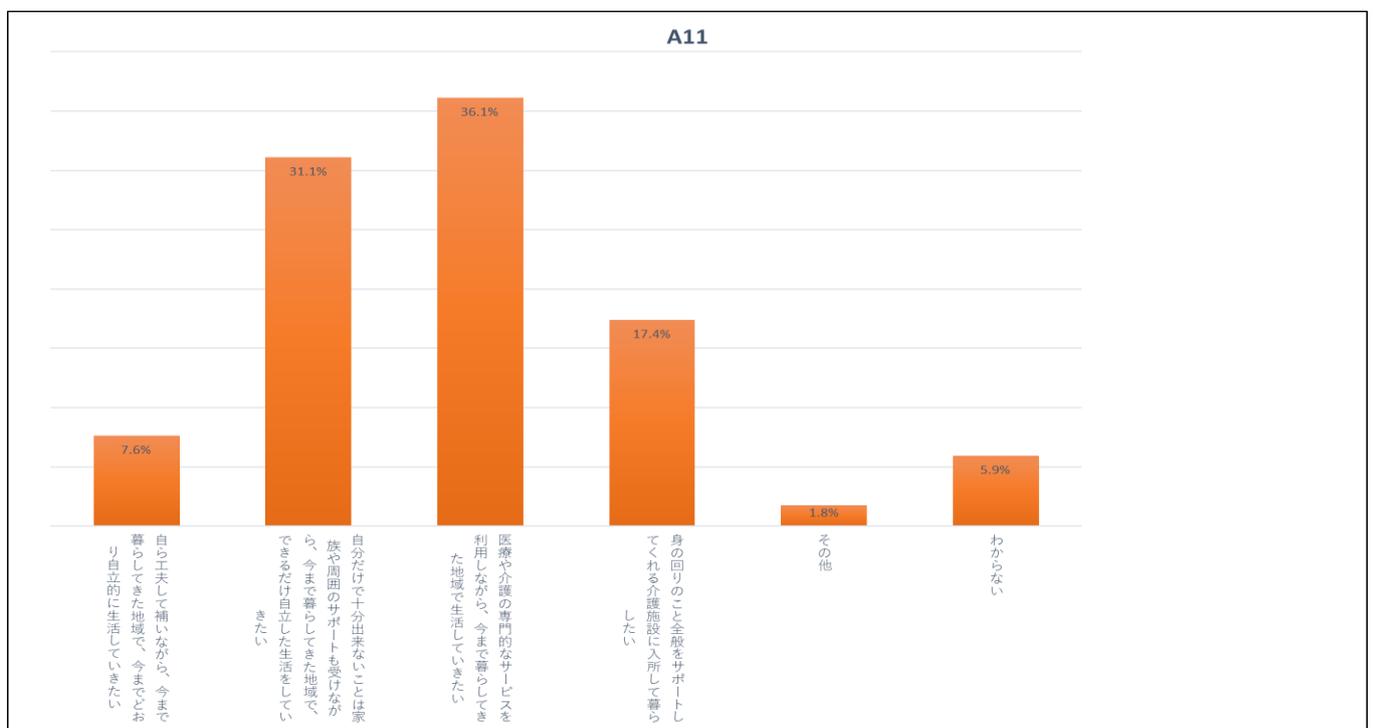
回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	11.9%
ややそう思う	46.6%
あまりそう思わない	40.4%
全くそう思わない	1.2%



認知症の人が自分らしく暮らせる」と思いますかについて、「ややそう思う」が46.6%で最も割合が大きかった。

設問 A11 もし、あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか。あなたが思う最も近いものを1つ選択してください。なお、ご自身が認知症の診断を受けている場合は、今後の暮らし方の希望について、最も近いものを1つ選んでください。

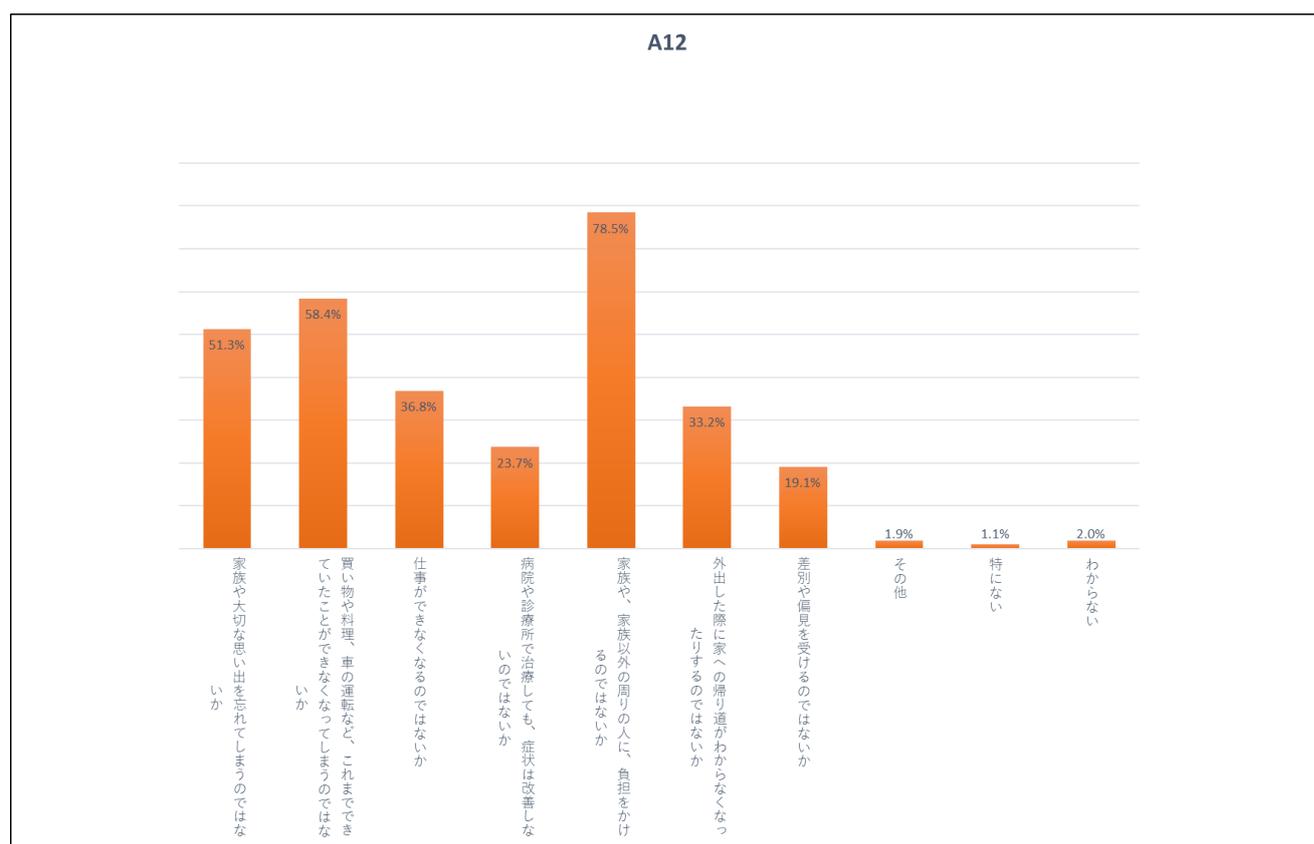
回答	専門職 (医療・介護従事者)
自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい	7.6%
自分だけで十分出来ないことは家族や周囲のサポートも受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活をしてい	31.1%
医療や介護の専門的なサービスを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	36.1%
身の回りのこと全般をサポートしてくれる介護施設に入所して暮ら	17.4%
その他	1.8%
わからない	5.9%



認知症になった場合の暮らしに関する意向について、「医療や介護の専門的なサービスを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が 36.1%で、最も割合が大きかった。

設問 A12 もし、あなたご自身が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じるとお考えですか。特に不安を感じるものとして、当てはまるものを全て選んでください。なお、ご自身が認知症の診断を受けている場合は、現在、特に不安に感じていることを選択してください。(複数回答あり)

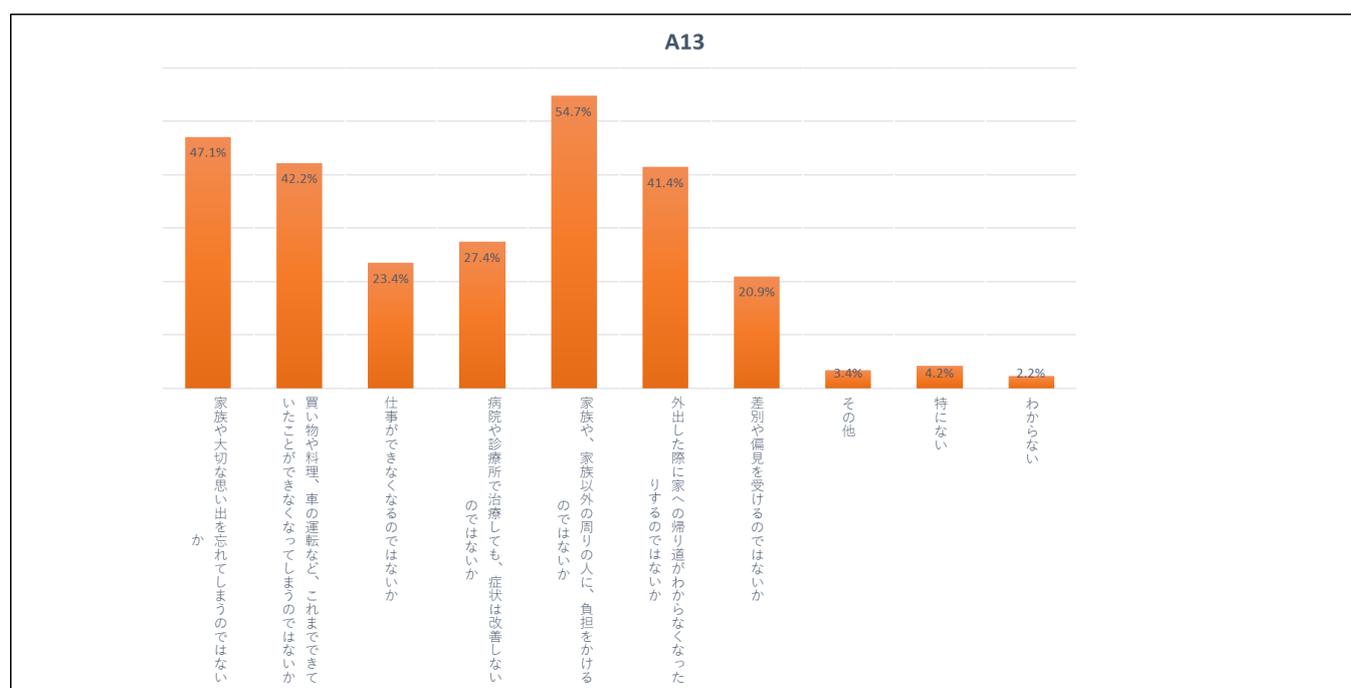
回答	専門職 (医療・介護従事者)
家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないかと	51.3%
買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないかと	58.4%
仕事ができなくなるのではないかと	36.8%
病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないかと	23.7%
家族や、家族以外の周りの人に、負担をかけるのではないかと	78.5%
外出した際に家への帰り道がわからなくなったりするのではないかと	33.2%
差別や偏見を受けるのではないかと	19.1%
その他	1.9%
特になし	1.1%
わからない	2.0%



自分自身が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じるかについて、「家族や、家族以外の周りの人に、負担をかけるのではないかと」が 78.5%で、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないかと」が 58.4%と割合が大きく、不安を感じている割合が大きかった。

設問 A13 もし、あなたのご家族が認知症になったとしたら、あなたはどのようなことに不安を感じると思いますか。なお、現在、ご家族に認知症の人がいる場合は、特に不安に感じていることを選んでください。

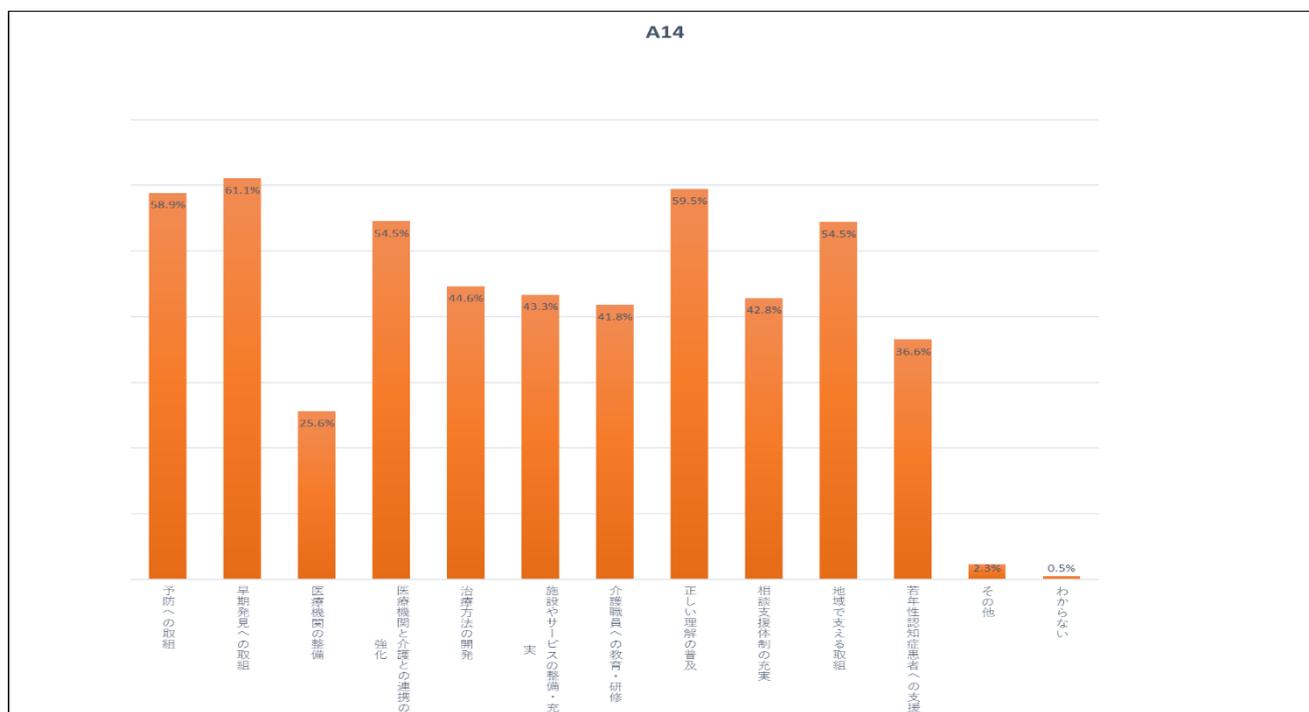
回答	専門職 (医療・介護従事者)
家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないかと	47.1%
買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないかと	42.2%
仕事ができなくなるのではないかと	23.4%
病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないかと	27.4%
家族や、家族以外の周りの人に、負担をかけるのではないかと	54.7%
外出した際に家への帰り道がわからなくなったりするのではないかと	41.4%
差別や偏見を受けるのではないかと	20.9%
その他	3.4%
特にない	4.2%
わからない	2.2%



家族が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じるかについて、「家族や、家族以外の周りの人に、負担をかけるのではないかと」が 54.7%で、不安に感じている割合が最も大きかった。

設問 A14 社会として、最も重点を置くべき認知症施策について、重要だと思うものを選んでください。(複数回答あり)

回答	専門職 (医療・介護従事者)
予防への取組	58.9%
早期発見への取組	61.1%
医療機関の整備	25.6%
医療機関と介護との連携の強化	54.5%
治療方法の開発	44.6%
施設やサービスの整備・充実	43.3%
介護職員への教育・研修	41.8%
正しい理解の普及	59.5%
相談支援体制の充実	42.8%
地域で支える取組	54.5%
若年性認知症患者への支援	36.6%
その他	2.3%
わからない	0.5%



社会として、最も重点を置くべき認知症施策について重要だと思うものは、「早期発見への取組」が、61.1%と最も大きかった。次に「正しい理解の普及」が 59.5%であった。

専門職(医療・介護従事者)対象 認知症に関する意識調査アンケート
自由記述

設問 A2 認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いものを1つ選んでください。

認知度によって、認知症のイメージが違うので、その他にしました。
認知度によります。
状態により、上記各項目当てはまると思います。
認知症の度合いによる。
認知症の度合いにもよるため回答困難です。
全て認知症の状態としてみてきたので全て当てはまる。全てイメージできてしまいます。
認知症の程度によって、家族や近所のサポート・理解、医療・介護などのサポートがあれば今まで暮らしてきた地域で生活をしていける。
認知症の程度にもよるので、出来るか否かの判断は難しいです。ただ、周りの理解とサポートが重要であると思います。
認知症になっても、周囲からのサポートも受けながらも、生き生きと暮らしていけることもあるが、多くの困難と生き辛さを経験する。
認知症になっても、周囲のサポートや医療介護のサービスを利用して、自宅で住めたらよいと思っているが、現実には難しいと感じている。
元々、近所と関係が希薄な方はほとんど引きこもりであったり、家族がいなかったり家族が協力的ではなかったり、家族も介護が必要な状態な場合は、自宅で暮らす事は非常に難しい。医療や介護サービスも限界があり、社会福祉協議会や包括支援センターや在宅介護支援センターなども協力的ではないため、施設入所が安心だとつくづく思います。
上記全てのことが当てはまると思う。
認知症も人によって状態が様々で選択が難しい。
認知症にも、色々な症状の出方があるので、ケースバイケースである。
認知症の程度で違う。
認知症の症状が、その方の生活に大きく影響する。
症状の進行の程度によって、上記の選択肢の状態になると思う。また、関わりによって進行の程度は大きく変化すると思う。
認知症になると、短期記憶の低下、見当識の低下などがあり、家族の支援があれば、サービスなど利用し自宅での生活ができる。
認知症の症状や程度は、勿論その他本人様や周辺環境の状況等によって、どのような生活を送ることができるかは大きく変化する。

軽度の認知症であれば、周囲のサポートや医療介護などのサポートを利用しながら地域で生活していけるが、重症化してくれば、それだけではどうにもならない現実があり、介護施設のサポートでなければ難しい。
認知症の診断がされたなら、その方の生きる環境によって症状の進行も尊厳の保持も大きく差が出る。
一つは選べない。全部当てはまる。
認知症になっても在宅での生活は可能だが、症状の進行に伴い、介護者の負担が増加し入所となる事が多い。介護者の負担は人により違う。
最も近いイメージは、上記の上から3番目、4番目、5番目が同じ程度のイメージです。
誰もがなり得る身近な病気であり、適切な支援と理解があればその人らしく暮らせる状態。
症状によって異なる。また家族の理解、協力体制、医療機関、利用できるサービス、社会資源によっても地域での生活は異なる為、上記の最も近いものには選択肢はない。
認知症になっても、家族の協力やサービスを活用する事で、今まで暮らしてきた地域で生活出来る人もいれば、家族の協力等周囲のサポートが得られない認知症の方は、介護施設への入所等が必要になる場合もある。

設問 A11: もし、あなたが認知症になったとしたら、どのように暮らしたいと思いますか。あなたが思う最も近いものを1つ選択してください。なお、ご自身が認知症の診断を受けている場合は、今後の暮らし方の希望について、最も近いものを1つ選んでください。

その時の状況に応じて、上記の項目を使い分けていけると良いと思います。
子がいらないため遠縁に頼るしかなく、迷惑をかけないためには、その方の生活を邪魔しないよう、その方の意思に任せたい。
認知症の初期であれば、自宅で生活できると思うが、認知症が重度で契約をしたくないなど、個人の意見を尊重しすぎると行政機関のできることも限界がある。家族が疎遠で協力がしてもらえないなど、本人の意思をどこまで受け入れることができるか？飼っている動物はどうするのか？認知症になる前から整理したいが、自分が認知症になっていることを受け入れることができるか？近隣や周りが認知症の人ばかりいたら、サポートも難しいと思う。自分が周りに迷惑をかけるようになったら施設に入りたい。
認知症の状態の段階に応じたところで暮らしたい。
すぐ死なせてほしい。
初期の段階であれば、出来ればそれまでの生活環境を大きく変えずに暮らしたいと思うが、近くに親族含め支援者がいないと不安がある。それなら施設のほうが良いのかもしれないという考えもある。
家族のご負担にならないような生活を希望する。

認知症の割合によって、考え方が変わるので選択できない。
可能であれば安楽死を望みます。
認知症のレベル状態像によっては、自宅での生活は無理になるだろうと思っているが、発症からそこに至るまでには何年もあると考えている。
軽度であれば、周囲のサポートを受けながら自宅で過ごしたいが、重度であれば全般をサポートしてくれる施設に入所したい。
症状の程度により、上記の選択肢の状態を希望すると思う。
認知症症状の状態にもよるので、一概には答えられません。周りの人に迷惑をかけずに在宅生活が送れるならば在宅で、そうでなければ施設でと思っています。
診断を受けた時の年齢、家族を含めた周辺環境、自身のADLによって選択すると思う。
家族に迷惑かけてまで長生きしたくない。
認知症の進行具合によりどうしたら良いかの意見は変わる。
家族には、自身が認知症になった場合は、負担をかけたくないので、無理なら入所させていいと伝えている。
安楽に死を迎えたい。
認知症の症状によっては、自宅で暮らせないことはあると思う。その時々症状によって、暮らしの場所は変化してよいと考えている。
家族の介護負担等が殆どない状況であれば、制度やサービスを利用して自宅で過ごしたいと思う。配偶者や子どもの生活に大きな支障がないように、生活を送りたい。社会資源(医療・金融・買い物・移動等)が自宅の近くにある地域で暮らしたい。

設問 A12 もし、あなたご自身が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じるとお思いますか。特に不安と感じるものとして、当てはまるものを全て選んでください。なお、ご自身が認知症の診断を受けている場合は、現在、特に不安に感じていることを選択してください。

他者に迷惑や暴力、危害をくわえるのではないかと心配。
消費者被害や特殊詐欺のターゲットになる。
認知症になったら今の思いのままではない。その都度言う事も変わるから何とも言えない。
孤立感が強まり、不安が高まることで、結果周囲とうまく関われなくなる恐れ。その時、ありのまま受け入れてくれる理解者が周りにいるのか否かが不安。
自分の権利は守られるのか。不当な扱いを受けたり、騙されないか。
現段階では進行性の病気なので、今こう思っても、進行していく中で変化するかもしれないが、その時にそれを表現できるのか。ターミルの段階になった際に、周りに迷惑をかけすぎず、亡くなることのできるのか。

不安に思う力や不安を伝える能力が、減退している可能性があり、このことが不安ではある。
暴言や暴力などを与えるのではないか。
判断能力が低下し、正しい判断ができなくなるのではないか。
人に迷惑をかけたり、恥ずかしい事、自分の感情などを自分で制御できなくなるのが怖い。
思考や判断、行動ができなくなる事。
サポートしてくれる家族も兄弟もいなくて、金銭的に余裕もない場合どうしたらいいのかわからない。
かわいそうと思われる事。
誰も助けてくれなくて、認知のまま、途方に暮れていたらどうしよう。
自己決定はできない。1人での生活はできないなど決めつけられる事。
自分がどんな気持ちになるのかが一番不安。
意に反して家族に迷惑をかけるのではないか、社会に迷惑をかけるのではないか、認知症による周辺症状が出て周りの方に迷惑をかけないか心配です。
家族には負担をかけたくない。
社会にとって存在が必要でなくなる事。むしろ迷惑をかける存在となることに不安を感じます。
自分の意思が尊重されず、周囲に迷惑をかけてしまうことや、孤立してしまうことに不安を感じる。
認知症を発症してしまったら、わからなくなる。認知症を発症することが前提として現在考えられることとしてという設問なら回答できますが、この質問には答える事が出来ません。
自身が認知症になったら、選択事例にあることすら考えられなくなるので、質問事例自体が不適切。
契約、金銭管理、手続きなどが出来なくなる事への不安も大きい。感情の起伏が抑えられない、他者に攻撃的になるケースなどもある事への不安はある。

設問 A13:もし、あなたのご家族が認知症になったら、あなたはどのようなことに不安を感じるとお思いますか。なお、現在、ご家族に認知症の人がいる場合は、特に不安に感じていることを選んでください。

生活の意欲が低下しないか心配。うつ病や社会とのつながりが無くならないか心配です。
攻撃的になって、他の方々にご迷惑をおかけするのではないか。
免許証の返納がスムーズにできるのか。
火災を起こしてしまわないか、交通事故を起こしてしまわないか、水を出しっぱなしにしてしまわないか、ネットで買い物を沢山してしまわないか等。

介護・医療的サポートを受けるにあたり、金銭的負担が発生することへの心配。
持病の服薬管理ができなくなる恐れ。
慢性的な水分不足や、食事量で悪化してしまうのではないか。
買物などで、上手にのせられ品物に対してより多くのお金を支払ってしまう。
火事や交通事故等、これまでできてきたことからの解放(自分が認知症だと受け入れること)がスムーズにできるか否か。周囲の関わり方が大事。
穏やかに介護ができるか不安。
介護する家族間での意見の相違。(認知症の人への対応方法、介護施設等への要望など)
本人の精神的サポートをどうするか。
本人が受け止められるかが心配。
長期戦になるので経済的な不安、介護、本人が好きだったことや、大事にしていたことが出来なくなること。
他人に迷惑をかけるのではないか。
暴言や暴力などを与えるのではないか。
認知症になっていることに対して、当人が落ち込むことや、困惑することが家族としては辛い。
介護や医療費について、金銭的にどのくらいかかるのか。
自分や認知症になった家族のことを知っている人間が、側にいないときに、事故にあったりトラブルになって、本人が傷ついてしまわないか。
若年性アルツハイマーの場合は、仕事や金銭面で不安を感じるが、後期高齢以降であれば仕方ない。
今以上に進行したらどうになってしまうのか。
本人が本人でなくなってしまうのではないか。
必要なサポートの把握と調整。
金銭的に余裕があれば、いろいろなサービスも考えられる
認知症が進行した時の住処、施設ならタイミング、見極め、どんな症状がでるか。
本人の意向をどこまで汲み取って支援できるか不安。介護者側の気持ちを優先してしまう(サービス量など)かもと不安。
お金などの負担。
支援者によって理解、価値観が違うこと、どんな人に支援されるかにより生活は変わる。支援してもらう側は相手が苦手でも、納得できなくても、従わないといけない状況はある。当事者はその人しか知らない、どんな人に支援してもらえるかは、人生を大きく左右する。
本人の希望するようにしてあげられるか。
目の行き届かないところで社会に迷惑をかけてしまうのではないか。
やはり周辺症状が怖いと思います。

認知の程度に関わらず、日常生活に支援なしでは成り立たない。支援は在宅、施設と選択できる。自分事で捉えると在宅は弱体化している。施設は金額が不足する。この先を見据えた時にある意味、選択肢はないかと思う。
その状況にならないと分からない。
他人様や社会へ迷惑をおかけするようなことが生じないか不安に思う。
症状にどう対応すればよいか、介護の負担や本人の尊厳を守る支援ができるかが不安です。
他人に迷惑をかけないか。火事等の大きな損害を与えないか。
体力もあり、本人が排泄など本能的なことが自力で出来るうちは良いが、完全介護が必要となった時、支援する自分たち家族の将来にわたる様々な負担。
症状によっては、家族だけで介護ができなくなり、本人の意思に反して施設に入所してもらえないかも。本人の意思とは違うことをすることに対する罪悪感を感じなくてはならないかも。
親、義親、配偶者、子どもなど、自分との関係性によってと、その時の自分の健康状態、家庭の状況で、方向性はかわってくると思う。

設問 A14: 社会として、最も重点を置くべき認知症施策について、重要だと思うものを選んでください。

先進医療の認可を迅速に下す。(他国開発であっても)
インフラ整備。(買い物や預貯金出し入れがしやすい環境整備、見やすい交通標識、行政手続き等のサポート体制等)
認知症と言っても軽度から重度、様々で、ひとまとめに考えること自体が間違っている。上辺だけを見て知ったつもりで、新しい施策ばかり作られても介護現場はまともに回らない。
家族に対する支援やサポートの充実。
認知症であることを本人に納得させることが一番難しい。健康診断に認知症検査を組み入れ、医師から認知症であることを伝えることが、早期治療に繋がる一番の方法だと思う。医師以外の者が伝えてもトラブルになるだけ。
MCI への認識を高めること。(生活習慣や周囲の関わり方で左右される感情面の重要性) 社会とどう繋がれるのか(認知症の方に限らず)を考え続けること。
身の回りのことができていても周りに迷惑をかけていることもある。どこまで本人の意向を尊重するのか。本人が拒否しても認知症の措置入院や施設入所ができる体制もあっても良いのではないか。
介護従事者を増やす。

<p>介護支援専門員のケアマネジメントレベルの低さ。常に同じケアプランのままで、介護支援専門員一人の考え方のみを反映している。家族、通所、訪問、医療などのモニタリングなどが反映したケアプランではない。又地域包括事態もレベルが低いので介護支援が必要な方、認知症の方など安心して暮らせることはないと思われる。</p>
<p>介護支援専門員のケアマネジメント能力のレベルの低さ。介護支援専門員一人ですべてとめているように感じる。他の通所、訪問医療関係などのモニタリングを理解していない、又プランに反映していない。ずっと同じケアプランのままである。そんなケアプランでは認知症の方などを助ける事ができない。地域包括のレベルが低いのでこの先も良くなる。</p>
<p>地域の人もご自分の生活で精一杯のため、そんなに頼ることはできない。ゴミ捨てや雑費の買い物、病院受診の付き添い等が主に必要となるものの、肝心なそういう部分の手助けができる人がいない。(ホームヘルパーは、病院受診は長時間となるため断っている。)</p>
<p>介護や看護職員の充実。ボランティアの参加。</p>
<p>上記項目に関しては、全て重要だと思っている。</p>
<p>認知症の人の就労支援。</p>
<p>診断後の支援の充実。</p>
<p>運転免許更新時の認知症検査の厳格化、不適正な場合の速やかな取り消し。</p>
<p>様々な場面(医療・介護の現場、地域での暮らしの場)において、本人の意思を無視していることに憤りを覚えます。理想的な事だと思いますが、認知症であっても、そうでなくても、その人を尊重できる社会の取り組みができることを願っています。</p>
<p>重度の認知症の方への施策。</p>
<p>経済的負担の軽減。</p>
<p>医療福祉の人材不足の改善。</p>
<p>人口の増加。尊厳死を認められる法整備。</p>
<p>施設やサービスの整備や充実というよりは、職員確保が急務では。相談支援体制はある程度あると思うが、相談しやすいツールを充実させていく必要がある。地域で支える取組も大切だとは思うが、地域に押し付けるような形にならないことが重要だと思う。担い手が負担とならない程度で。</p>
<p>今後増加する身寄りがない世帯に対する支援。</p>
<p>認知症予防という発想自体が、認知症というものをネガティブに捉えている結果なので、認知症は予防するものではなく、認知症とともに生きることのノウハウを啓発していくべきだと思う。</p>
<p>介護(サポート)している家族へのケア。例えば金銭的なことや精神的なことも含め、自身の将来への不安や孤独感を感じるケースは多いと思われる。</p>

認知症の医療・介護には、症状によっては本人 1 人に対して手厚いサポートが必要である。医療・介護の人材不足が大変問題であると危惧している。サポートをする人が高給で人材も豊富なら地域で本人らしく暮らせる。施設でも職員の疲弊や虐待等を防げると考えている。

日常生活自立支援事業や成年後見制度に繋がるまでに時間がかかりすぎる為、困ったらすぐ対応してくれる契約や手続き、金銭管理等の制度が必要。